防衛大学校本科第４７期、理工学研究科前期課程第４０期及び総合安全保障研究科第５期学生卒業式防衛大学校長式辞

（平成１５年３月２３日）

第7代学校長　西原　正

防衛大学校本科第４７期４０１名、理工学研究科前期課程第４０期６４名及び総合安全保障研究科第５期１６名の学生諸君は、本日をもって所定の課程を修了し、本校生活に別れを告げることになりました。勉学、訓練に情熱を傾けて所期の目標を達成した卒業生諸君に対し、私は本校の教職員一同を代表して、心から敬意と祝意を表します。遠路はるばる全国から本式典にご参列賜りましたご両親、ご家族の皆様方におかれましては、ご子女のご卒業を心からお祝い申し上げます。

本日のこの栄えある式典を挙行するに当たり、中東情勢をはじめとする国内外情勢の厳しい折りに、ご臨席賜りました地元ご出身の小泉内閣総理大臣[注(1)]、石破防衛庁長官[注(2)]をはじめ、内外多数の来賓各位のご参列に対しまして、厚くお礼を申し上げる次第でございます。また学生たちのこれまでの教育訓練に当たって、直接間接にご支援下さいました各自衛隊、校友会顧問、在京大使館、防大学術教育振興会、同窓会、防大協力会、留学生協力家庭、それに横須賀市の諸団体など多くの方々に対して、衷心よりお礼を申し上げたく存じます。

さて本科を卒業する諸君、諸君はこれより幹部候補生学校に進み、いよいよ幹部自衛官としての道を歩み始めることになります。小原台はそのための自己練成の場でした。４年前の平成１１年４月、この小原台に入校した時には、自分の将来に対して一抹の不安を抱いていたことと察します。しかし諸君は、その後の４年間に、毎日の過密ともいえる日課を難なくこなし、集団生活の中で規律と礼節を重んじるようになりました。そして時間をやりくりしながらの勉学や校友会活動などを通して、精神力と強靭な体力をもつようになりました。いまこの４年間を振り返り、各人が達成した精神的、肉体的成長に自信と誇りをもつべきです。

その自信と誇りを基礎に、諸君が国防への強い使命感と責任感をもっ

注(1)　小泉純一郎

注(2)　石破　茂

てくれることを望ます。それは、時と場合によっては、自らの命を顧みず事に当たるという覚悟を意味します。そしてこの覚悟は、武器の使用を伴うこともあるでしょう。武器の使用に当たって、幹部自衛官には、決断と勇気、沈着さと自制心、そして高い倫理感が求められます。

こうした資質を磨くためにも、今後とも体力を練成する傍ら、寸時を惜しんで歴史書や哲学書、古典文学などの読書をし、深い洞察力と柔軟な思考力を養ってくれることを期待します。

理工学研究科前期課程を卒業する諸君は、過去２年間部隊から離れて、小原台で習得した専門的知識を基に、今後は防衛技術の基盤の強化に貢献してくれることを望みます。また総合安全保障研究科課程を修めた諸君は、より専門的な視点から安全保障問題と真剣に取り組んでくれることを望みます。

卒業する研究科学生には、防衛庁外から受託した５名が含まれていますが、過去２年間の生活を通して、国防の重要性を理解してくれたことと思います。

本日卒業する諸君の中には、本科及び研究科で学んだインドネシア共和国、大韓民国、モンゴル国、タイ王国及びヴェトナム社会主義共和国の５カ国から来た２１名の留学生が含まれています。留学生諸君は、祖国を離れて、文化習慣の異なる日本に派遣され、本校において日本人学生と文字通り寝食をともにし、多くの困難を克服して所定の課程を見事に修めました。この努力に対して深い敬意を表します。この間、日本人学生との間に結ばれた強い絆が、やがて国際平和協力活動などで活かされることを願ってやみません。

学生諸君、いよいよ小原台を後にする時がきました。我々教職員一同は、前途洋々たる諸君の門出を祝い、健闘を祈っています。

諸君、卒業おめでとう。